

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
数学	数学ⅠA	5単位	1年次	必修	
教科書	NEXT数学Ⅰ・NEXT数学A(ともに数研出版)				
副教材等	CONNECT数学Ⅰ+A(数研出版) チャート式数学Ⅰ+A(数研出版)				
① 科目の目標(学習指導要領)					
数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解することができた。	事象を数学的に考察する力を身に付けることができた。	課題等への取り組み、提出ができた。
事象を数値化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けることができた。	既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を身に付けることができた。	授業の予習や準備に対する取り組みができた。
数学的な問題解決に必要な知識を身に付けることができた。	数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けることができた。	グループワークやペアワーク等への参加に意欲をもって取り組んだ。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	達成率約70%以上	達成率約50%以上	達成率約50%未満
②思考力 表現力	達成率約60%以上	達成率約30%以上	達成率約30%未満
③学びに向かう力	達成率約70%以上	達成率約50%以上	達成率約50%未満

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時評価項目			評価のポイント(規準)
			①	②	③	
4	数Ⅰ 1章	1節 式の計算	10	○	○	整式の加減乗法、因数分解ができる。
5	数と式	2節 実数	8	○	○	根号や絶対値を含む式の計算ができる。
6	数Ⅰ 3章	3節 1次不等式	8	○	○	1次不等式を解くことができる。
	2次関数	1節 2次関数とグラフ	10	○	○	平方完成し、グラフを利用できる。
		2節 2次関数の値の変化	14	○	○	最大値や最小値を求められる。 条件から2次関数を定められる。 具体的な問題の解決に最大最小を活用できる。
7		3節 2次方程式と2次不等式	18	○	○	2次方程式を解くことができる。 実数解の個数と判別式の関係を理解する。 グラフとx軸の共有点と、判別式の関係を理解する。 2次不等式を解くことができる。 具体的な問題の解決に2次不等式を活用できる。
8	数Ⅰ 2章	集合、命題と条件、命題と証明	10	○	○	図表などを用いて集合について理解する。 必要十分条件について理解する。 論理的な思考力を身に付け、証明に活用できる。
9	数A 1章	1節 場合の数	16	○	○	図表などを用いて要素の個数を求められる。 数え上げの法則を活用し、場合の数を求められる。 順列の総数を nPr や階乗を活用して計算できる。 組合せの総数を nCr を活用して計算できる。
10		2節 確率	20	○	○	基本性質を活用し、確率を求められる。 独立試行や反復試行の確率を求められる。 条件付き確率を求められる。
11	数Ⅰ 4章	1節 三角比	14	○	○	正弦、余弦、正接の意味を理解する。 三角比の表を活用できる。 鈍角の三角比の定義を理解する。 三角比の相互関係を活用できる。
	図形と計量	2節 三角形への応用	10	○	○	正弦定理、余弦定理を活用できる。 三角形の面積を求められる。 三角比を空間図形の計量に活用できる。
12	数A 2章	1節 平面図形	16	○	○	各種定理を活用し、辺の長さや角度を求められる。
1		2節 空間図形	5	○	○	中学校で学習した基本的な作図ができる。 空間における直線や平面の位置関係を把握できる。
2	数Ⅰ 5章	データの整理、データの代表値	16	○	○	度数分布表やヒストグラムを用いてデータを整理できる。 データの代表値について理解する。
	データの分析	データの散らばりと四分位数				箱ひげ図を活用し、データの分布を把握できる。
		分散と標準偏差、2つの変量の間の関係				散布図からデータの相関を捉えることができる。
3		データの分析を活用した問題解決				相関係数を求められる。
		仮説検定の考え方				

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
数学	数学Ⅱ・数学B	4単位・2単位	2年次	必修	
教科書	NEXT数学Ⅱ・NEXT数学B(ともに数研出版)				
副教材等	CONNECT数学Ⅱ+B(数研出版)				
① 科目の目標(学習指導要領)					
数Ⅱ：いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
数B：数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解することができた。	事象を数学的に考察する力を身に付けることができた。	課題等への取り組み、提出ができた。
事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けることができた。	既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統一的・発展的に考察する力を身に付けることができた。	授業の予習や準備に対する取り組みができた。
数学的な問題解決に必要な知識を身に付けることができた。	数学的な表現を用いて事象を明瞭・的確に表現する力を身に付けることができた。	グループワークやペアワーク等への参加に意欲をもって取り組んだ。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	達成率約70%以上	達成率約50%以上	達成率約50%未満
②思考力 表現力	達成率約60%以上	達成率約40%以上	達成率約40%未満
③学びに向かう力	達成率約80%以上	達成率約60%以上	達成率約60%未満

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時間	評価項目	評価のポイント(規準)
				① ② ③	
通年	全ての単元	・課題提出 ・授業観察(取り組み姿勢)			・課題にきちんと取り組み、提出できた。 ・(授業内の)演習を含めてきちんと演習を受けた。
4	(数B) 第1章 数列	第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	34	○ ○ ○	・数列について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につける。
6	(数Ⅱ) 第1章 式と証明	第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明	20	○ ○ ○	・3次式の展開や因数分解、二項定理や多項式の除法について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につける。 ・恒等式について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につける。
7	(数Ⅱ) 第2章 複素数と方程式	第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式	15	○ ○ ○	・複素数について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につける。
8	(数Ⅱ) 第3章 図形と方程式	第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	29	○ ○ ○	・点や直線に着目し、直線や円の方程式、軌跡や領域の考え方について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につける。
10	(数Ⅱ) 第4章 三角関数	第1節 三角関数 第2節 加法定理	24	○ ○ ○	・三角関数について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につける。
10	(数Ⅱ) 第5章 指数関数と対数関数	第1節 指数関数 第2節 対数関数	26	○ ○ ○	・指数関数、対数関数について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につける。
11	(数Ⅱ) 第6章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	32	○ ○ ○	・微分法、積分法について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につける。
1	(数B) 第2章 統計的な推測	第1節 確率分布 第2節 統計的な推測	30	○ ○ ○	・確率分布や推定、仮説検定の考え方について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につける。

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
数学	数学Ⅲ	3単位	3	D2群	
教科書	NEXT数学Ⅲ(数研出版)				
副教材等	CONNECT数学Ⅲ(数研出版)				
① 科目の目標(学習指導要領)					
極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活					

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解する。	事象を数学的に考察する力を身に付ける。	課題等への取り組み、提出。
事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。	既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を身に付ける。	授業の予習や準備に対する取り組み。
数学的な問題解決に必要な知識を身に付ける。	数学的な表現を用いて事象を明瞭・的確に表現する力を身に付ける。	グループワークやペアワーク等への取り組み。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	達成率約70%以上	達成率約50%以上	達成率約50%未満
②思考力 表現力	達成率約60%以上	達成率約40%以上	達成率約40%未満
③学びに向かう力	達成率約80%以上	達成率約60%以上	達成率約60%未満

年間指導計画および各観点評価の					
月	単元名	主な学習(指導)内容	実施時間	評価項目 ① ② ③	評価のポイント(規準)
4	第1章 関数	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数 テスト	7	○ ○ ○	関数について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
5 6	第2章 極限	第1節 数列の極限 第2節 関数の極限 テスト	20	○ ○ ○	極限について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
7	第3章 微分法	第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 テスト	12	○ ○ ○	微分法について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
8 9	第4章 微分法の応用	第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用 テスト	15	○ ○ ○	微分法の応用について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
10 11 12	第5章 積分法とその応用	第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用 テスト	36	○ ○ ○	積分法について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。

教科 数学	科目 数学C	単位数 2単位	開設年次 3	選択群 C・E2・E4	作成担当者
教科書	NEXT数学C(数研出版)				
副教材等	CONNECT数学C(数研出版)				
① 科目の目標(学習指導要領)					
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い					

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解する。	事象を数学的に考察する力を身に付ける。	課題等への取り組み、提出。
事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。	既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を身に付ける。	授業の予習や準備に対する取り組み。
数学的な問題解決に必要な知識を身に付ける。	数学的な表現を用いて事象を明瞭・的確に表現する力を身に付ける。	グループワークやペアワーク等への取り組み。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	達成率約70%以上	達成率約50%以上	達成率約50%未満
②思考力 表現力	達成率約60%以上	達成率約40%以上	達成率約40%未満
③学びに向かう力	達成率約80%以上	達成率約60%以上	達成率約60%未満

年間指導計画および各観点評価の					実施時間	評価項目 ① ② ③			評価のポイント(規準)
月	単元名	主な学習(指導)内容							
4 5 6	第1章 平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 テスト			15	○	○	○	平面上のベクトルについて理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
7 8	第2章 空間のベクトル	1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間 テスト			10	○	○	○	空間のベクトルについて理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
9 10	第3章 複素数平面	1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形 テスト			15	○	○	○	複素数平面について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
11 12	第4章 式と曲線	第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標 テスト			20	○	○	○	式と曲線について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
数学科	実用数学A	2単位	2	C群	
教科書	公務員国家公務員地方初級⑤ 一般知能				
副教材等					
① 科目の目標(学習指導要領)					
これまで学習してきた算数・数学から、複雑化した事象を数理的に捉え、論理的に推察する力をつける。 ・社会生活における数理的な事象について、問題解決できる力をつける。					

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
これまでに学習してきた数学の概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、表現・処理したりする技能を身につける。 社会生活における数学的な事象の中にある数学的な概念や原理・法則を理解し、表現・処理するする技能を身につける。	文章を読み解き図式化し、事象の構造を明確にする力を身につける。そのことで、数学的な思考をより具体的で明確な表現へと転化させる力を身につける。また、思考の糧でより簡潔・明確な表現へ向かう判断力を身につける。	数学の知識や技能を活用しながら、問題に対して、論理的に解決できる、粘り強い取り組みができるようにする。 社会生活における数学的な事象に対して積極的に関わり、既知の知識や技能をさらに深めようと努める。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	数学の概念や原理・法則を体系的に深く理解し、表現処理できる。	数学の概念や原理・法則を体系的に概ね理解し、表現処理できる。	数学の概念や原理・法則を体系的に理解し、表現処理できない。
②思考力 表現力	数学的な思考を簡潔・明確な表現へ向かう判断力が深く身についている。	数学的な思考を簡潔・明確な表現へ向かう判断力が身についている。	数学的な思考を簡潔・明確な表現へ向かう判断力が身についていない。
③学びに向かう力	問題解決に粘り強く取り組む姿勢を示す。	問題解決に取り組む姿勢を示す。	問題解決に取り組む姿勢があまり見られない。

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実施時間	評価項目	評価のポイント(規準)
前期	第1編 数的推理 (数的処理)	第1章 方程式	32	① ○	・単元確認テスト ・授業の取り組み
		第2章 割合		② ○	
		第3章 速さ		③ ○	
		第4章 確率			
		第5章 図形の計量			
		第6章 整数			
		第7章 計算パズル			
		第8章 規則性			
後期	第2編 判断推理 (課題処理)	第1章 順序関係	38	① ○	同上
		第2章 対応関係		② ○	
		第3章 集合		③ ○	
		第4章 論理			
		第5章 位置関係			
		第6章 試合			
		第7章 証言			
		第8章 暗号			
		第9章 数量			
		第10章 日暦算			
		第11章 手順			
		第12章 道順			

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
数学科	実用数学B	3単位	3	D1群	
教科書	公務員国家公務員地方初級⑤ 一般知能				
副教材等					
① 科目の目標(学習指導要領)					
これまで学習してきた算数・数学から、複雑化した事象を数理的に捉え、論理的に推察する力をつける。 ・社会生活における数理的な事象について、問題解決できる力をつける。					

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
これまでに学習してきた数学の概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、表現・処理したりする技能を身につける。 社会生活における数学的な事象の中にある数学的な概念や原理・法則を理解し、表現・処理する技能を身につける。	文章を読み解き図式化し、事象の構造を明確にする力を身につける。そのことで、数学的な思考をより具体的に明確な表現へと転化させる力を身につける。また、思考の糧でより簡潔・明瞭な表現へ向かう判断力を身につける。	数学の知識や技能を活用しながら、問題に対して、論理的に解決できる、粘り強い取り組みができるようにする。 社会生活における数学的な事象に対して積極的に関わり、既知の知識や技能をさらに深めようと努める。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	数学の概念や原理・法則を体系的に深く理解し、表現処理できる。	数学の概念や原理・法則を体系的に概ね理解し、表現処理できる。	数学の概念や原理・法則を体系的に理解し、表現処理できない。
②思考力 表現力	数学的な思考を簡潔・明瞭な表現へ向かう判断力が深く身についている。	数学的な思考を簡潔・明瞭な表現へ向かう判断力が身についている。	数学的な思考を簡潔・明瞭な表現へ向かう判断力が身についていない。
③学びに向かう力	問題解決に粘り強く取り組む姿勢を示す。	問題解決に取り組む姿勢を示す。	問題解決に取り組む姿勢があまり見られない。

年間指導計画および各観点評価のポイント							
月	単元名	主な学習(指導)内容	実時 50	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
前期	第2編 判断推理 (課題処理)	第5章 位置関係 第6章 試合 第7章 証言 第8章 暗号 第9章 数量		○	○	○	・単元確認テスト ・授業の取り組み
	第2編 判断推理 (課題処理)	第10章 日暦算 第11章 手順 第12章 道順	40	○	○	○	同上
後期							

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
数学	応用数学A	3単位	3年次	D1群	
教科書	ベストセクション 2025大学入学共通テスト数学重要問題集(実教出版)				
副教材等	2025 共通テスト実践問題 バックV 数学Ⅰ・A35(駿台文庫)				
① 科目の目標(学習指導要領)					
数学Ⅰ・Aのそれぞれの単元について、発展的な知識の習得と技能の習熟を図ることによって、事象を多面的に考察し、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。					

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
数学における基本的な概念や原理・原則を(体系的に)理解できた。	事象を数学的に考察する力を身につけた。	課題への取り組み・提出ができた。
(数学における)問題解決に必要な知識を身につけた。	(事象を明瞭・明確に)数学的な表現をすることができた。	授業の予習・復習に対する準備ができた。その上で授業に臨めた。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	単元テスト・授業への参加等の達成率80%以上	単元テスト・授業への参加等の達成率50%以上	単元テスト・授業への参加等の達成率50%未満
②思考力 表現力	単元テスト・授業への参加等の達成率70%以上	単元テスト・授業への参加等の達成率40%以上	単元テスト・授業への参加等の達成率40%未満
③学びに向かう力	授業への参加・課題の提出等の達成率80%以上	授業への参加・課題の提出等の達成率60%以上	授業への参加・課題の提出等の達成率60%未満

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実施時間	評価項目	評価のポイント(規準)
通年	全ての単元	・課題提出 ・授業観察(取り組む姿勢)		① ② ③	・課題にきちんと取り組み提出できた。 ・(授業内の)演習を含めてきちんと授業を受けた。
4	数と式・集合と論証	多項式の計算／因数分解／無理数の計算／対称式／不等式／絶対値記号／集合と命題	7	○ ○	・各単元とも基本事項を理解できている。 ・テキストの各項目に対する考え方が理解でき、問題解決に必要な知識を身につけている。
4・5	二次関数	最大・最小／平行移動／対称移動／最大・最小(応用)／二次関数の決定／二次方程式／二次不等式	9	○ ○	
5・6	図形と計量	三角比の相互関係／三角方程式／三角不等式／正弦定理／余弦定理／面積／空間図形	9	○ ○	
7	データの分析	代表値／四分位数／箱ひげ図／分散／標準偏差／共分散／相関係数	7	○ ○	
8・9	場合の数と確率	順列／組み合わせ／確率の計算／反復試行／条件付確率／期待値	9	○ ○	
9・10	図形の性質	角の二等分線／三角形の五心／メネラウスの定理／チェバの定理／円の性質／接線	8	○ ○	
10 11 12 1	演習	数学Ⅰ・Aの復習(共通テストに向けた演習) 個別試験に向けた演習	41	○ ○ ○	・共通テストレベルの問題や個別試験レベルの問題への対応力を身につけた。

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
数学科	応用数学B	3単位	3年次	D1, D2	
教科書					
副教材等	2025 大学入学共通テスト(問題集) 2025 実践問題バックV				
① 科目の目標(学習指導要領)					
数学Ⅱ、数学B、数学Cの内容の演習等とおして、共通テストをはじめとした入試に対応できる力をつける。					

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解することができた。	事象を数学的に考察する力を身に付けることができた。	課題等への取り組み、提出ができた。
事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けることができた。	既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を身に付けること	授業の予習や準備に対する取り組みができた。
数学的な問題解決に必要な知識を身に付けることができた。	数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けることができた。	グループワークやペアワーク等への参加に意欲をもって取り組んだ。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	テスト等の達成率約70%以上	テスト等の達成率約50%以上	テスト等の達成率約50%未満
②思考力 表現力	テスト等の達成率約60%以上	テスト等の達成率約40%以上	テスト等の達成率約40%未満
③学びに向かう力	授業への参加、課題提出約80%以上	授業への参加、課題提出約50%以上	授業への参加、課題提出約50%未満

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時	評価項目			評価のポイント(規準)
				①	②	③	
通年	全ての単元	定期的な課題提出 授業に取り組む姿勢					課題をきちんと提出することができた。 しっかり授業を受けることができた。
4	公式の確認						公式を身に付けることができた。
4	微分法と積分法	接線の方程式、極大値・極小値、 3次関数の最大・最小、面積、 微分と積分の関係	8	○	○		微分法と積分法について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
5	三角関数 指数・対数関数	加法定理、2倍角・半角の公式、 三角関数の合成、三角方程式・不等式、 指数・対数の性質、指数・対数の計算、 指数・対数関数のグラフ、 指数・対数方程式、不等式	8	○	○		三角関数について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。 指数・対数関数について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
6	数列 確率分布と統計的推測	等差数列、等比数列、階差数列、 漸化式、群数列 確率変数の期待値と分散、二項分布、 正規分布、標準正規分布、 標本平均の期待値と標準偏差 母平均の推定、統計的仮説検定	12	○	○		数列について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。 確率分布と統計的推測について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
7	図形と方程式 式と証明・高次方程式	直線の方程式、点と直線の距離、 円の方程式、軌跡の方程式、 領域内での最大・最小 二項定理、複素数、解と係数の関係、 剰余の定理、因数定理、高次方程式	11	○	○		図形と方程式について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。 式と証明・高次方程式について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
8	ベクトル	平面ベクトル、空間ベクトル 位置ベクトル	4	○	○		ベクトルについて理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
9	複素数平面	複素数平面の偏角と図形、 ド・モアブルの定理、 複素数平面上の図形・点の回転移動	13	○	○		複素数平面について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
10		共通テストに向けて演習	10	○	○		共通テストレベルの問題に対応できる力を身につけた。
11		共通テストに向けて演習	10	○	○		共通テストレベルの問題に対応できる力を身につけた。
12		共通テストに向けて演習	9	○	○		共通テストレベルの問題に対応できる力を身につけた。
1		個別試験に向けて演習	5	○	○		個別試験レベルの問題に対応できる力を身につけた。
2							
3							

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
数学科	応用数学α	2単位	3年次	E5	
教科書					
副教材等	2025 大学入学共通テスト(問題集)				
	2025 実践問題バックV				
① 科目の目標(学習指導要領)					
数学Ⅰ、数学Aの内容の演習等とおして、共通テストをはじめとした入試に対応できる力をつける。					

評価の観点

①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解することができた。	事象を数学的に考察する力を身に付けることができた。	課題等への取り組み、提出ができた。
事象を数式化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けることができた。	既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を身に付けることができた。	授業の予習や準備に対する取り組みができた。
数学的な問題解決に必要な知識を身に付けることができた。	数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けることができた。	グループワークやペアワーク等への参加に意欲をもって取り組んだ。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	テスト等の達成率約70%以上	テスト等の達成率約50%以上	テスト等の達成率約50%未満
②思考力 表現力	テスト等の達成率約60%以上	テスト等の達成率約40%以上	テスト等の達成率約40%未満
③学びに向かう力	授業への参加、課題提出約80%以上	授業への参加、課題提出約50%以上	授業への参加、課題提出約50%未満

年間指導計画および各観点評価のポイント

月 通 年	単元名	主な学習(指導)内容	実施 評価項目				評価のポイント(規準)
			①	②	③	④	
	全ての単元	定期的な課題提出 授業に取り組む姿勢				○	課題をきちんと提出することができた。 しっかり授業を受けることができた。
4	公式の確認 数と式・集合と 論証	整式の加法、減法、因数分解、 連立不等式、絶対値と場合分け 共通部分と和集合、命題の真偽、 必要条件・十分条件	4	○	○		公式を身に付けることができた。 数と式・集合と論証について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
5	2次関数	2次関数の最大・最小、 放物線の平行移動・対称移動、 2次関数の決定、2次方程式、 2次不等式	7	○	○		2次関数について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
6	図形と計量	三角比の相互関係、 三角比を用いた方程式・不等式、 正弦定理、余弦定理、 三角比の計量、外接円・内接円の半径	8	○	○		図形と計量について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
7	データの分析	四分位範囲と外れ値、箱ひげ図、 分散・標準偏差、共分散と相関、 相関係数と散布図	7	○	○		データの分析について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
8	場合の数と確率	集合の要素の個数、順列、重複順列、 円順列、組分け問題、 和事象および余事象の確率、 反復試行の確率、条件付き確率	3	○	○		場合の数と確率について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
9	図形の性質	角の二等分線の性質、三角形の五心、 チェバ・メネラウスの定理、 円に内接する四角形の性質、接弦定理	8	○	○		図形の性質について理解し、基本問題から応用問題まで解ける力を身につけた。
10		共通テストに向けて演習	8	○	○		共通テストレベルの問題に対応できる力を身につけた。
11		共通テストに向けて演習	7	○	○		共通テストレベルの問題に対応できる力を身につけた。
12		共通テストに向けて演習	6	○	○		共通テストレベルの問題に対応できる力を身につけた。
1		個別試験に向けて演習	2	○	○		個別試験レベルの問題に対応できる力を身につけた。
2 3							

教科	科目	単位数	開設年次	選択群	作成担当者
数学	基礎数学	3単位	3	D1	
教科書					
副教材等	チェックノート数学Ⅰ＋A(数研出版)				
① 科目の目標(学習指導要領)					
1年次に学習した数学を基礎として、基本的な問題の考察を通して、公式の成り立ち、数学的な見方・考え方の良さについての理解を深化させ、高校卒業後も社会人として有用な数学的思考と能力を育てる。					

評価の観点		
①知識 技能	②思考力 表現力	③学びに向かう力
数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解することができた。	事象を数学的に考察する力を身に付けることができた。	課題等への取り組み、提出ができた。
事象を数式化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けることができた。	既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力を身に付けることができた。	授業の予習や準備に対する取り組みができた。
数学的な問題解決に必要な知識を身に付けることができた。	数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けることができた。	グループワークやペアワーク等への参加に意欲をもって取り組んだ。

上記の観点を以下の基準で評価します。

	評価Aとなること	評価Bとなること	評価Cとなること
①知識 技能	達成率約70%以上	達成率約50%以上	達成率約50%未満
②思考力 表現力	達成率約60%以上	達成率約30%以上	達成率約30%未満
③学びに向かう力	達成率約70%以上	達成率約50%以上	達成率約50%未満

年間指導計画および各観点評価のポイント

月	単元名	主な学習(指導)内容	実時評価項目			評価のポイント(規準)
			①	②	③	
4	第1章 数と式	1 展開の公式 2 因数分解(1) 3 因数分解(2) 4 根号を含む式の計算(1) 5 根号を含む式の計算(2) 6 1次不等式 7 絶対値を含む方程式・不等式	☐	☐	☐	① 整式の基本的な計算ができる。また、積の順序を工夫するなど、効率よく計算ができる。 ② 因数分解の公式が利用できる。また、1文字について整理するなど、効率よく計算ができる。 ③ 根号を含む式の計算ができる。また、分母の有理化について理解し、基本的な計算ができる。
5	第2章 集合と命題	8 集合と命題 9 命題と条件 10 命題と証明	☐	☐	☐	① 集合の考え方を理解し、用語の定義を学び、条件の否定とド・モルガンの法則を理解する。 ② 命題の逆、裏、対偶について理解し、真偽を判断できるようにする。
6	第3章 2次関数	11 関数とグラフ 12 2次関数のグラフ(1) 13 2次関数のグラフ(2) 14 2次関数の最大・最小(1) 15 2次関数の最大・最小(2) 16 2次関数の決定(1) 17 2次関数の決定(2) 18 2次方程式 19 グラフと2次方程式 20 2次不等式の解法 21 2次不等式的应用 22 連立不等式	☐	☐	☐	① 関数の概念を用語とともに確認・理解する。また、定義域・値域などの用語を身に付ける。 ② 2次関数 $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形し、そのグラフを利用できる。 ③ 定義域に応じて2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ④ 2次関数のグラフについて与えられた条件から、その2次関数を定められる。 ⑤ グラフと軸の位置関係から、2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができる。 ⑥ 具体的な問題の解決に2次不等式を活用できる。 ⑦ 2次不等式を含む連立不等式を解くことができる。
8	第4章 図形と計量	23 三角比(鋭角) 24 三角比の拡張(1) 25 三角比の拡張(2) 26 正弦定理・余弦定理 27 正弦定理・余弦定理の応用 28 三角形の面積(1) 29 三角形の面積(2) 30 空間図形への応用	☐	☐	☐	① 鈍角にまで拡張した三角比の定義を理解し、鋭角の場合と矛盾しないことを確認する。 ② 三角形の辺と角の間の基本的な関係として正弦定理・余弦定理を理解し、活用できる。 ③ 正弦定理・余弦定理を用いて、既知の辺や角から残りの辺や角を求めることができる。 ④ 条件に応じて正弦定理や余弦定理を活用し、三角形の面積を求めることができる。
10	第5章 データの分析	31 データの分析(1) 32 データの分析(2)	☐	☐	☐	① データの特徴や傾向を度数分布表やヒストグラムを用いて表すことができる。
11	第6章 場合の数と確率	33 集合の要素の個数 34 場合の数 35 順列(1) 36 順列(2) 37 組合せ(1) 38 組合せ(2) 39 事象と確率(1) 40 事象と確率(2) 41 独立試行の確率 42 反復試行の確率 43 条件付き確率(1) 44 条件付き確率(2) 45 期待値	☐	☐	☐	① 図などを用いて有限集合の和集合の要素の個数を求めることを学び、応用できる。 ② 和の法則、積の法則を理解し、樹形図も利用しながらその総数を求めることができる。 ③ 順列の意味を理解し、その総数を求める計算ができる。順列を使った様々な考え方ができる。 ④ 組合せの意味を理解しその総数を求める計算ができ、組合せを使った様々な考え方ができる。 ⑤ 確率の意味を知り、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識する。 ⑥ 独立な試行の確率について、具体例を通してその意味を理解する。 ⑦ 反復試行の確率を理解する。このとき、組合せを用いることを理解する。 ⑧ 条件付き確率と確率の乗法定理について、具体例を通してその意味を理解する。
12	第7章 図形の性質	46 三角形の辺の比、三角形の外心・内心・重心 47 三角形の外心・内心・重心 48 チェバの定理・メネラウスの定理 49 円に内接する四角形 50 円と直線 51 方べきの定理	☐	☐	☐	① 角の二等分線の定理と三角形の内心を理解する。 ② 三角形の重心・外心を理解する。また、外接円、内接円との関係を理解する。 ③ チェバ・メネラウスの定理を理解し、定理を用いて辺の比を求めることができる。 ④ 円に内接する四角形の定理と四角形の外接条件の定理を理解し、活用する。 ⑤ 接線と弦のつくる角の定理について理解し、角土を求めることができる。 ⑥ 方べきの定理において2直線の交点の位置が異なっても線分の長さを求めることができる。